



きたのだいしょう
北ノ台小

としょかん
図書館だより

令和8年9月 No.5

校長 門田英朗
学校司書 笹島成美

くがつ 9月になりますが、まだまだ暑い日が続きます。台風の影響で、これから雨の日も増えてくると、じめじめとした暑さになり、熱中症の危険も高まります。生活習慣を整えていき、残暑を乗り越えられるようにしていきましょう！

さて、知っている人も多いかもしれませんが、図書室では朝日小学生新聞を定期的にしています。その中で、7月22日の朝日小学生新聞の見出し記事に「無視したいと思ったことある？」というものがありました。自分は誰かを無視したいと思ったことはないのですが、こういう心の状態があるのだなあと興味深く思いました。とはいえ、無視はいけません。子どもでも、大人になっても変わりません。自分は、大人になってから挨拶を無視されるようになった経験がありますが、やはり頭を悩ませるものです……。

記事は、図書室前のホワイトボードに掲示してありますので、気になった人はぜひ見てみてください！

図書室は2日(水)から開館します。司書は1日からいますので、ご用のある方は遠慮なく来てくださいね。

※夏休み貸出の本を返す期限は、9月10日(木)まで※

図書室へ上がる階段にある、黄色いブックトラックに返す本をおいてもよいです！



くがつ 9月のテーマは「昔話・おとぎ話」です。

あわせて、2学期の間は「昔話・おとぎ話を知ろう！楽しもう！」をテーマに、児童のみなさんへ冊子を配ります。昔話・おとぎ話の読んだ種類の数によって、色々な景品を用意しますので、お楽しみに！



『かぐやひめ』

いもとようこ 文・絵／金の星社

竹取りの翁は、竹の中から小さな女の子を見つけ、
「かぐやひめ」と名付けた。美しい娘に成長し、5人
の若者から求婚されたかぐやひめは、見たことも聞いたこともない宝の名を挙げ、それを持ってきた人と結婚すると言ひ…。

『こびとのくつや』

寺村輝夫 文、岡村好文 絵
小学館

働きものだけど、貧乏な靴屋がおりました。とうとう、一足分の靴の皮しかなかったその夜から、不思議なことが起こりはじめます…。靴屋の誠実さと、靴屋を幸せに導く2人の小人たちを、やさしく描いたグリム童話。



『しあわせの王子』

ワイルド原作、いもとようこ 文・絵
金の星社

町を見下ろせる台の上に、しあわせの王子の像が建っていました。体は金ぱくでおおわれ、目や剣には宝石がはめられています。その足元で休もうとした一羽のつばめは、王子にあることを頼まれ…。「しあわせ」とはなにか？ 考えさせられるおはなし。



『雪女』

小泉八雲 作、平井呈一 訳、伊勢英子 絵／偕成社

ひどい吹雪にあい、渡し守の小屋に逃げ込んだ二人の木こりは、戸をしっかりと締めて横になった。いつとはなしに眠り込んだその顔に雪があたり、若者が目をさますと、白装束の女が年老いた男の顔に息を吹きかけている…。

